

地域別勉強会助成制度実施報告

ミニ小祝塾

⑪九州ブロック編

Report

肥薩自然農業グループ
(5月20日)

●柑橘の勉強会

小祝さんを迎え、肥薩自然農業グループ新田農園で、柑橘の施肥について勉強会を行いました。

新田農園の柑橘園で現地研修とボカシ肥料の研修を行い、その後の講義で微生物（菌）の話、ボカシ肥料の意義、植物生理と肥培管理等について充実した講話があり、みんな熱心に勉強しました。特に土壌分析を行ない正しい施肥設計をすること、石灰（Ca）、苦土（Mg）についてなど、わかりやすく説明してもらいました。今後の柑橘栽培に役立てたいと思います。

報告：新田九州男さん

かごしま有機生産組合
(5月21日)

●学ぶことはまだまだあった

出席した各生産者が、それぞれ自分の作目で悩んでいること、わからないこと等を持ち寄り、それに小祝さんが応えていただく形の座学と、実際に圃場に出て作物の様子を見ながらの勉強の2本立てで実施。大口（注：地名）では主に根菜を中心に、蒲生では主に果菜を中心に進めました。そしてミネラルの働きの基本を反復学習しながら、今後の肥培管理、施肥設計の勉強をしていきました。大口の池田さんの畑では、二葉が開いたくらいのごぼうが、既に直根を15cm程も伸ばしているのを見て、一同ビックリ！まだ根を

伸ばしてはいないだろうと出席したほとんどのメンバーが考えていただけに、知らないことや勉強することは沢山あるのだと改めて感じました。今後引き続き自分の畑を客観的に知るための土壌分析、それに基づいた施肥設計を行い、結果がどうなるのかを追跡し、品質、収量、味などの向上につなげたいと思います。報告：岩本卓也さん

宮崎有機農業研究会
(5月22日)

●かあちゃん達も参加して

今回は毎年開催しております総会の日程に合わせて小祝塾を行ないました。と申しますのは、父ちゃんばかり出席しておりましたが、母ちゃんにも聞かせたい、父ちゃんと母ちゃんによりよい肥料設計ができるのではないかと思います。全員参加の勉強会でした。

テーマは堆肥とミネラルの必要性。特に堆肥は作物にとって必要であり、また未成熟な堆肥は雑草も多くなり、害虫発生の原因ともなります。また、チッ素成分を考えず投入量を多くすると過剰の堆肥を与える事にもなります。

数回小祝塾に参加している生産者は理解もよく、「なるほど」という言葉が返ってきます。後は実践のみ、実行することによって結果が出てきます。

報告：長嶺政広さん

水の子会
(5月23日)

●来年のことは今年から

午前中圃場の確認、午後座学。梅雨入りが遅れている中、朝から各生産者の圃場を土壌分析結果を見ながら何かを不足してどのような症状が出ているのかを確認しながら圃場を廻りました。土壌分析結果が改善されることで、木に変化が現れてきた事がわかり理解し

春の収穫が終わり、九州の5月の勉強会は次の作に備え、土壌分析と施肥設計を復習しておくものとなりました。その場で小祝さんに設計を講評してもらい、施肥をして、来年の春また成果を検討し、繋げていく予定です。また、このとき学んだことを基に、その後の夏の勉強会では、各自が秋の施肥設計を持ち寄りました。

やすかったです。来年は豊作年で隔年結果を改善するには今年が重要である、今年を逃すと数年改善が遅れてしまうとの事でした。肥料やミネラルがどれだけ必要か、いつ必要なのか考えていかななくてはいけないと思います。どうしても今までは、総数量を入れていけば済むと考えていたので、適期の作業を惜しまない事が重要である。今年は全国集会も行われるので分析結果を基礎にしてこられた生産者に成果を見て貰えるように今後の管理に励みたいと思います。報告：今村正一さん

長崎有機農業研究会
(5月24日)

●土壌分析・施肥設計は大切

午前中は、昨年からの指導していただいているミカンの圃場見学を行ないました。葉の状態・根の張り方など調べている内、石灰は十分だけど苦土が少ない為全体的に葉が小さいことと、窒素24kg施肥している圃場にしては、窒素が効いていないということでした。昨年土壌分析はしたのですが、施肥設計は本人の例年通りの施肥でしたのでやはり土壌分析と施肥設計は大事だと感じました。

午後からは正しい施肥設計というテーマで、昨年土壌分析をした圃場を今年も作物別に行い、その結果を見てもらいました。正しい施肥設計をしないと石灰・苦土が不足しており、燐酸が高くなっていること。そして燐酸が多いことによって腐敗が生じることが理解できたと思います。

昨年までは各会員各1圃場を調べてきましたが、会員が栽培している作物毎の土壌分析を行ない、長有研として今後ボカシ肥の作り方・成分などを考え直し、正しい施肥設計を指導していきます。報告：城谷高幸さん